多摩市図書館協議会会議次第

〔令和８年度第２回定例会〕

令和８年７月９日(木) 午後２時３０分から　多摩市立中央図書館活動室２・３

【議題】

１　令和７年度多摩市立図書館事業評価について

【報告】

１　多摩市物価高騰対策書店利用券配布事業について（報告）

資料１　　令和７年度多摩市立図書館事業評価について
資料２　　多摩市物価高騰対策書店利用券配布事業について（報告）

資料１

様式２

令和７年度多摩市立図書館事業評価【自己評価】

（１）評価対象施策（第二次多摩市読書活動振興計画の施策より多摩市図書館協議会で選定）

・１．基本方針１　だれもが使える図書館
　　施策１－６　読書バリアフリーの推進
・２．基本方針２　一人ひとりの子どもに寄り添うサービス
　　施策２－１　本に親しむ機会の充実
・３．基本方針３　市民のしらべるを支え、役立つ図書館
　　施策３－２　多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供・充実
・４．基本方針４　持続可能な図書館の管理・運営体制の充実と強化
　　施策４－３　ボランティア活動の促進

（２）評価対象施策、取組み事項ごとの実施結果、自己評価

基本方針１　評価対象施策

１．施策１－６　読書バリアフリーの推進

施策１－６の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「個々の特性に応じたサービスの提供・拡充」	
実施結果	・障がい者サービスの充実として、希望図書の音訳資料、点訳資料、点字絵本などを作製した。 音訳図書４タイトル、音訳雑誌 18 タイトル、点訳資料２タイトル ・定期的な対面朗読について、図書館内の障がい者サービス担当と連絡調整を行い、円滑に実施した。実施回数・実施館：17 回（永山）・34 回（聖ヶ丘） ・視覚等の障がいがある方の読書を支援するため、障がい者等用情報機器の貸出を行った。　貸出件数：５件 ・図書館に来館することが困難な利用者が希望する図書などを、自宅や高齢者施設、多摩市内の病院まで、お届け、回収する宅配サービスを行った。　実施回数 72 回 ※宅配サービスは職員だけでなく「宅配サービスボランティア」も請け負っている。
自己評価	・アクセシブルな資料整備や対面朗読、やさしい日本語による案内等の提供により、利用に配慮が必要な市民も図書館サービスを利用しやすくなり、読書機会の拡大につながった。また、宅配サービスにより、図書館に来館できなくても本を読むことができる環境を提供できた。
② 取組み事項「だれもが利用しやすいアクセシブルな書籍等の充実」	
実施結果	・多摩市電子図書館の利用案内のテキストデイジーを作成した。作成数１冊。 ・東京都、障害福祉課と連携し、障がい者対象のスマートフォン教室を中央図書館で開催した。参加者 20 人
自己評価	・障がいのある方だけでなく、だれもが使える資料も整備することで、より多くの方の読書推進につなげることができた。また、紙の本が読みにくい方に対し読書を促すきっかけとなり、読書に困

	難がある方だけでなく、周りの方にも資料を知ってもらうことで当事者の利用につなげることができた。 ・スマートフォン教室などで職員が案内することによりオーディオブックなどが利用できる電子図書館の利用のハードルを下げることができた。
③ 取組み事項「点訳者、音訳者、電子データ製作者等の計画的な人材養成」	
実施結果	・DAISY 編集者養成講習会（レベルアップ講習会：全３回）を実施した。参加者８人 ・障がい者サービスの継続及び充実を図るため、令和８年度に音訳資料作成及びデイジー編集を担う行政協力員の新規養成講座実施に向けて計画を策定した。全 15 回で実施予定。
自己評価	・音訳資料や点訳資料の作製や対面朗読に関わる音訳者、点訳者の育成講習会や音訳技術の向上を目的とした研修や講習会を開催することにより、一定の基準を保つことができている。 ・今後のサービスの充実と持続可能な運営を考慮すると新規協力員の育成は必須である。
④ 取組み事項「関係機関等と連携した障がい者サービスの周知」	
実施結果	・誰もが本に親しめる機会を提供するため音声ガイドや日本語字幕付きの「バリアフリー映画会」を実施した。上映映画タイトル：「じんじん」　参加者 12 人 ・「冬のスペシャルおはなし会」で手話を含めたおはなし会を実施した。参加者 73 人 ・中央図書館バックヤードツアーを手話付きで実施した。参加者 31 人 ・聴覚障がい者団体の中央図書館見学を受け入れ、図書館サービスについて案内した。参加者 44 人 ・「声のやまばと通信」や多摩市電子図書館の利用案内を提供し、図書館を利用することが困難な市民に速やかに情報提供をした。年６回作成 ・「やまばと通信」7 月号に障がい者サービス紹介記事を掲載し、利用者に周知した。 ・障害福祉課やケアマネジャー等の関係機関と連携し、障がい者サービスの周知を行った。 ・７、８月に、中央図書館にて障がい者サービスに関する企画展示を行った。 ・「やさしい日本語」による利用案内について、ＬＬ版の利用案内のひな形を活用し、作成に着手した。 ・りんごの棚で手作りのリーディングトラッカーの配布を行った。
自己評価	・関係施設との連携により、支援を必要とする方へ情報を届ける機会を増やすことができた。 ・図書館の利用方法について、やさしいことばやピクトグラムで表記することで知的障がいがある方にもわかりやすくなった。 ・活字を読みにくい方に対し読みやすくなるツールを、実際に手に取ってもらうことで存在を知ってもらうことができた。

基本方針２　評価対象施策

２．施策２－１　本に親しむ機会の充実

施策２－１の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「おはなし会の充実」	
実施結果	・図書館内での実施だけでなく、児童館等と連携し定期的に実施した。赤ちゃんおはなし会実施回数（全７館合計）：98 回、参加人数：1,301 人（うち子ども：660 人） パルテノン多摩こどものひろばＯＬＩＶＥや児童館事業の実施状況に応じた出張により実施した。実施回数：４回、参加人数：73 人（約半数がこども） ・赤ちゃんおはなし会で、保護者向けに毎回テーマを決め、４～６冊紹介した。併せて、後日貸出や予約が簡単にできるようリストの配布も行った。（永山） ・書架整理などのフロアワークを通じて、子どもたちと直接触れ合う時間を意識的に増やした。（関戸・永山） ・近隣保育園などへ声掛けし、散歩の際の立ち寄り場所として来館を促し、フロアワークを行うとともに定期的な読み聞かせを実施することにつなげた。地域ごとに開催されている子どもに関係する会議などの場を活用し、保育園との情報交換も定期的に行った。 実施館：関戸・永山、実施回数：57 回（関）・12 回（永）、来館人数：こども 658 人（関）・こども 42 人（永）
自己評価	・赤ちゃんおはなし会を、全図書館で実施できた。新築マンションなどへの子育て世代の流入によって、大幅な参加者増となった館もあり、おはなし会はもとより、図書館の認知度向上にもつながった。 ・赤ちゃんおはなし会で保護者に向けたテーマを毎回設定し、おすすめ本や子育て関連資料を紹介するとともに、図書館利用や乳幼児期からの読書について伝えることができた。 ・フロアワークを意識的に増やすことで、保護者や親子などに本を紹介するきっかけを増やすことができた。保育園と直接つながりを持つことで、来館につながり、子どもたちへの読み聞かせの実施にもつなげることができた。
② 取組み事項「イベントの充実」	
実施結果	・イベントを実施する際は、子どもたちの生の声を聞く貴重な機会と捉え、アンケートを実施した。アンケートで得た子どもたちの興味や関心を小学生、中学生を対象とした講座等、検討の際の参考とした。（企画２） ・児童館等の主催事業への参加や、場所をお借りするなど、連携して絵本の読み聞かせを実施した。（企画２・豊ヶ丘・東寺方・唐木田） ・中央図書館では新たに落合児童館と連携し、ベビー、キッズそれぞれの時間、全３回訪問（延べ 19 組参加）し、各回 10 冊ほどを読み聞かせたり、紹介したりする機会を持つことができた ・各種講座やイベントなどを学校の長期休業期間に合わせて実施。講座（２種）：168 人（中央）、謎解き：72 人（東寺方）、クイズ：108 人（豊ヶ丘）、ビンゴ：293 人（関戸）、理科実験・一日図書館員：16 人（唐木田）

	・夏休み、冬休みなどにスペシャルおはなし会を実施。13 回、参加人数：342 人（うち子ども：212 人）（中央・東寺方・関戸・聖ヶ丘・永山・唐木田） ・３月ほんともおはなし会を実施。実施回数：41 回（この内、赤ちゃんおはなし会：９回）、参加人数：子ども 350 人
自己評価	•どのイベントも、子どもたちが楽しく参加している様子がうかがえた。特に、ほんともフェスタの中学生以上を対象とした天文の講座では、ターゲットの中高生の参加が多くあり、友人に誘われて参加するなど、新たな来館者の獲得につながった •児童館等と連携することで、絵本の読み聞かせだけにとどまらず、子育てに関連する資料などを介して、保護者との距離が縮まり、様々なお話をする時間を持つことができ、図書館も子どもだけでなく保護者の居場所として機能できると感じられた。
③ 取組み事項「保護者への働きかけ」	
実施結果	・子連れの方だけでなく、プレママ・プレパパ期の方の立ち寄りもあると想定し、6 月開催の「たまこどもフェス」へ初めて参加した。ブースを２カ所お借りし、それぞれに図書館資料を配置、来訪者（約 270 人・うち子ども 115 人）に自由に見ていただいた。室内では個別や少人数に読み聞かせを行い、野外テントではおはなし会（15 人参加・うち子ども９人）を実施した。 ・８月中央図書館で、プレママ・プレパパ企画展示「あかちゃん　いらっしゃ～い！」を実施した。期間中、約 80 冊の資料を展示スペースへ配架するとともに、ブックリストを作成し、配布した。またこのブックリストは、その期間中のブックスタートの該当者にも配付し、有効活用した。 ・ブックリストへの掲載候補となる絵本等の選書を進め、64 冊を選定した。すべてをブックリストに掲載することは難しいが、ＱＲコードなどを活用するなど、より多くの絵本等を紹介できる方法や保護者の方の参考となる構成について検討した。 ・公共施設４か所（市役所４階、ベルブ永山３階、総合福祉センター３階、アクアブルー多摩３階）に設置している絵本の入れ替えを、年１回実施した。また、図書館案内やブックリストの配置も実施した。市役所内の部署移動に伴う変更もあったため、ホームページの掲載内容や写真について、実際の設置状況に合わせた内容に変更した。
自己評価	•図書館内での企画展示やターゲットを子どもやその保護者としているイベントへ参加するなど、保護者やこれから保護者となる方々へ向けて、子どもたちが本に親しむことの大切さなどについて直接お話する機会を得ることができた。 •ブックリストの改訂に向けた検討を進めることができた。 •子どもやその保護者が多く立ち寄る公共施設4か所へ、各所管との連携により本や配布物の設置を継続して行うことができた。

基本方針３　評価対象施策

３．施策３－２　多様な情報源を活用したレファレンスサービスの提供・充実

施策３－２の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「多様な情報源を活用したレファレンス機能の強化」	
実施結果	・レファレンスサービスの利用促進を図るため、事例の蓄積及び定期的な公開方法について検討を行った。多摩市立図書館ホームページ上でのレファレンス公開件数は 202 件であった。 ・図書館ホームページで公開しているレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに登録し、新たに 15 件を公開した。 ・図書館内で利用可能な調べものに役立つオンラインデータベースについて、「やまばと通信」で２種を紹介するとともに、パスファインダー等を通じて周知した。オンラインデータベースを含む利用者用インターネット端末の利用件数は、全館合計 2,659 件であった。
自己評価	・図書館利用者に向けては「やまばと通信」やパスファインダーの配布、利用者用インターネット端末の提供などを通じてデジタル情報を含めたレファレンスサービスの提供を行い、利用促進や機能の強化を図ることができた。 ・また、多摩市立図書館ホームページ上や国立国会図書館レファレンス共同データベースで公開を行いレファレンス事例を周知することで、非図書館利用者に向けてもレファレンスサービスの提供を行うことができた。
② 取組み事項「利用者の図書館資料や情報活用（情報リテラシー）の支援」	
実施結果	・電子図書館利用説明会において、電子図書館で利用できる音楽配信データベースの案内を行い、2,268 回閲覧された。 ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービスについて、概要を記載したチラシを配布し、利用促進に向けた情報提供を行い、利用件数は全館合計 57 件であった。
自己評価	・電子図書館や国立国会図書館デジタル化送信サービスなど、図書資料と比較して認知度の低いデジタル資料について情報提供や利用説明会を行うことで、利用者への情報活用の支援を行うことができた。

基本方針４　評価対象施策

４．施策４－３　ボランティア活動の促進

施策４－３の実施結果及び自己評価について

① 取組み事項「ボランティアや行政協力員の活動の促進・支援	
実施結果	・市民が図書館と協働し、主体的に運営するイベントの企画を募集、図書館ホームページで公開後、実施企画の決定を市民参加で実施後、決定したイベントを実施した。 募集・公開期間：令和７年７月～８月（令和７年 12 月～令和８年３月実施）・令和８年１月～２月（令和８年６月～９月実施） イベント決定会議：２回　９月６日（１回目）・３月 15 日（２回目）　参加人数：34 人（延べ） 実施したイベント：４イベント（プラモデル体験会／図書館の新計画を市民のためのサービスに具体化しよう／製本体験～自分で書いて作った本を図書館に！！～／本と。語り合い『宇宙、妖怪、本づくり』） 実施期間：令和７年 12 月～令和８年３月　参加人数：100 人（延べ） ・新たに募集した植栽ボランティア活動（敷地内美化活動を通じて、自然に触れる機会の提供や、より図書館に親しみを感じていただく）が円滑に実施できるように、活動をサポートした。　植栽ボランティア：４人（中央） ・複合施設の特性を活かし地域の方々と連携したリサイクル本交換会を実施した 実施日：３月 14 日、15 日　実施場所：東寺方図書館正面企画図書コーナー ・図書館ホームページに掲載している内容について、７月に各団体の活動実態に合わせた内容に変更した。掲載団体数：20 団体 また３月には、イベント「ほんともフェスタ」での団体紹介展示を実施した ・図書館おはなし会ですでに活動している方と外部で活動している方で構成された団体が新たに発足し、おはなし会を定期的に開催し、特別おはなし会も開催した。定例：４回、特別：１回　（東寺方）
自己評価	・市民協働イベントについて参加や実施方法の仕組み作り、おはなし会ボランティアの活動支援体制など環境を整えることにより、市民の主体的な参画が進み、図書館や読書活動の活性化と協働の推進につながった。
② 取組み事項「ボランティアや行政協力員の養成」	
実施結果	・市民協働イベントのフォローアップとしてワークショップ「わたしたちの図書館トーク～語ろう・つくろう・つながろう。図書館と協働の一歩～」を実施し、令和６年度の市民協働イベントの募集、決定、実施を振り返りながら、話し合った。 実施日・場所：６月１日　中央図書館活動室１　参加人数：14 人　講師：岡本　真氏 ・ブックスタート多摩市絵本かたりかけ事業に協力するボランティアを３人増員し、新規ボランティアに対する心得などの研修を１回実施した。 ・都立多摩図書館の司書に講師を依頼し、集団に対する読み聞かせについて実演やワークショップを交えた講座（初級・中級）を実施した。また、講座修了者を対象に図

	書館員によるフォローアップを実施した。フォローアップは複数人での実施とし仲間づくりにつながるよう行った。 初級５月 24 日、31 日、６月 21 日（全３回）　受講人数：28 人 中級９月 27 日　　受講人数：21 人 フォローアップ　希望人数：８人（１名につき最低３回実施） ・読み聞かせに関連し、声の出し方や表現についての講座を実施した。 実施日：３月 28 日　参加者数：38 人 ・障がい者サービスについては、１－６に記載
自己評価	・市民協働イベントのフォローアップとして市民協働イベントの決定方法や募集方法などを参加者とKPT法（Keep（継続）・Problen（課題）・Try（挑戦）の3つを考える思考方法）を用い話し合うことにより、よかった点や改善点などを参加者と共有でき、次年度以降の継続につなげることができた。 ・ブックスタート多摩市絵本かたりかけ事業に協力するボランティアに対する研修会の実施により、実際の健診会場での対応等を全員で再確認することができた。 ・読み聞かせに講座初級については、昨年度と実施方法を変更し、様々な絵本を知る機会にもなるよう、より丁寧に、を念頭に全3回に渡る講座として実施できた。また、受講された方のうち1人は、読み手として図書館職員とともに読み聞かせへの参加につなげることができた。

資料２

令和８年７月９日
図書館協議会資料
教育部 図書館

多摩市物価高騰化対策「多摩市本のまち書店利用券」の実施報告について

1　目的・概要

物価高騰で厳しい家計を支援するとともに、子ども達の学習支援や読書活動の推進、市内書店支援につなげていくことを目的に、市内書店と進める「本のまちプロジェクト」の取組として、市内在住の小学生、中学生及び令和8年度小学校入学予定の児童に市内書店（4店舗）のみで書籍等を購入できる地域商品券（5,000円分）を配布した。

対 象 者：小中学生及び令和８年度小学校入学予定者
（令和7年10月1日に多摩市に住んでいる方及び11月末までに転入された方）
金　　額：1人5,000円分（500円×10枚）
利用店舗：新刊書（児童書や学習参考書など）を取り扱っている市内書店
・丸善多摩センター店　　・紀伊國屋書店多摩センター店（旧啓文堂書店）
・くまざわ書店桜ヶ丘店　・くまざわ書店永山店
利用範囲：書店で販売している書籍や文具等　※図書カード等の換金性の高い商品は対象外
発 送 日：令和７年12月13日（土曜）～　　※前日、郵便局に持ち込み
利用期間：利用券受取日～令和8年2月28日
広　　報：たま広報（11月20号）、教育委員会だより、図書館ホームページ、ニュースリリース、定例校長会で周知したほか、各書店でもポスターを作成するなど独自に周知した

2　対象人数

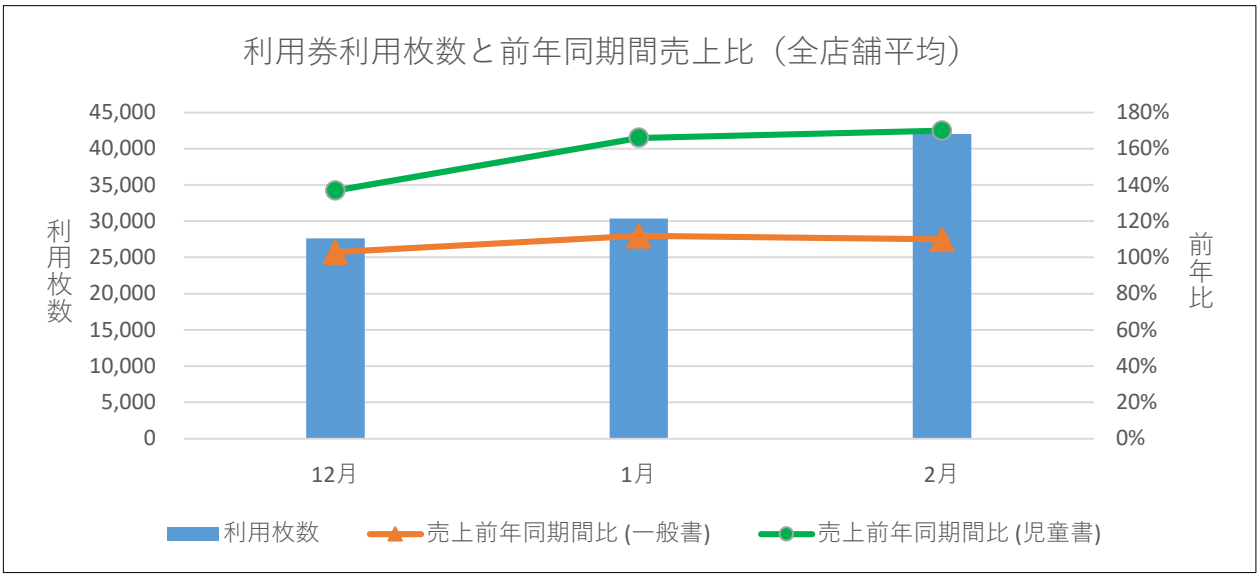
送付月	送付対象者	人数
12 月	対象者	11,161人
12～２月	連絡をいただき、後日送付の方	22人
計		11,183人（111,830枚）

3　利用券及びお知らせの発送状況

日付	配布物	対象条件
12 月 13 日	・案内文書 ・書店ブックリスト ・図書館ブックリスト ・多摩市本のまち書店利用券	市民課にて住民票を 10～11 月に抽出した方 ※489 通が簡易書留送付後、郵便局より不在等の理由により図書館へ返送された。図書館で引き渡し。
1 月 15 日	・再通知文書	受け取りのない方　382 人
2 月 6 日	・再々通知書 ・やさしい日本語・英語版のお知らせ ・書店ブックリスト	受け取りのない方　127 人
3 月 1 日		受け取りのなかった方　78 人

4　書店での利用枚数（4店舗合計）及び前年同月期間売上比平均

	12月	1月	2月	計	利用率 （回収枚数/配布枚数）
利用枚数	27,643枚	30,347枚	42,039枚	100,029枚	89%
児童書売上比	137%	166%	170%		
一般書売上比	103%	112%	110%		



5　来店状況など（各書店の報告より）

来店状況：・週末や冬休み期間などに親子での来店が多くなり、それまで書店を訪れたことがない方も多く来られたと書店から報告されており、書店に行くきっかけとすることができた。

購入の効果：・児童書は各店舗とも前年同月期間の売り上げに比べて150～160%となり、対象とした児童、生徒が本を購入していることがうかがえる。

・児童書以外の一般書や学習参考書や辞書、コミックなどが多く売れ、全体の売上としては前年同月期間と比べ103～110%であったとの報告があり、学習支援にもつながった。

・文具を扱っている書店では、本だけでなく文具や教育用品の売り上げも伸びたとの報告があった。一方で文具を扱っていない店舗もあったことから単純比較は難しい。

以上